第2学年道徳科学習指導案

町 田 市 立　小 山 小 学 校
対象　第2学年1，2，3組　各36名
指導者　1組　主任教諭　財間　理史
2組　教　諭　荘　さとみ
3組　主幹教諭　井上　美幸

1　主題名　「明るい心で」【A－(2)正直・誠実】

2　教材名　「さるへいと立てふだ」（東京書籍　新しい道徳　第2学年）

3　単元構想

(1)児童について(児童観)

嘘がいけないことは十分理解しているが、叱られるのを回避しようと嘘やごまかしをしてしまうことがある。本学年は「学びの喜びを知り、安心して自分を出す姿（STEP1）」を目指す段階にある。これまでも道徳の時間に自分の思いを表現してきたが、葛藤する場面では「みんなはどう思っているのだろう」「どうすればよかったのだろう」と周囲の考えと比較しながら自分の言動を見つめ直す途上にある。

(2)教材について(学習材観)

柿の実を独占したいさるへいが、「しぶがき」と、嘘の立て札を立てるが、心を見透かすような書き換えを経験する中で、正直になり友達と分け合う喜びを知るストーリーである。欲と正直さの間で揺れ動くさるへいの姿は児童にとって共感しやすく、「うそをついたときのもやもや」と「正直になれたときのすっきり感」を自己の体験と重ね合わせて捉えるのに適した教材である。

(3)単元について(単元観)

自分を守るための嘘やごまかしは、心の中に後悔や罪悪感を生む。本単元では、さるへいの心境の変化をたどりつつ、クラスの友達と多様な考えを共有・参照し合う（他者受容）ことを通して、「正直に生きることの心地よさ」に自ら気付き、日常の判断や生活へとつなげていく力（自己理解・主体的な判断）を育てる。

4　研究主題に迫るための手だて

【自己理解】

①登場人物になりきる体験を通じた心情理解の工夫

・2年生は、言葉だけで内面を捉えるのが難しい、ゆえに、登場人物になりきることで、「嘘」と「正直」で揺れる複雑な感情に気付けるようにする。

②正直さの価値に目を向けられる導入の工夫

・導入で、「嘘をつかれたこと」「ごまかされたりしたことがあるか」を振り返り、正直に言うことの良さについて考えられるようにする。

③教材と自分の生活を結び付けて考える活動の工夫

・教材を通して、正直にすることの良さについて自分の生活から考えられるようにする。

【他者受容】

①対立する意見を板書で可視化する工夫

・「嘘」と「正直」の両方の立場を黒板に明確に明示する。自分と異なる意見をもつ人を構造的に見とる。

②他者の考えを活用して理解を助ける工夫

・登場人物の立場を考えることが難しい児童には、友達の意見を聞いて考えをまとめるようにする。

5 本時の学習

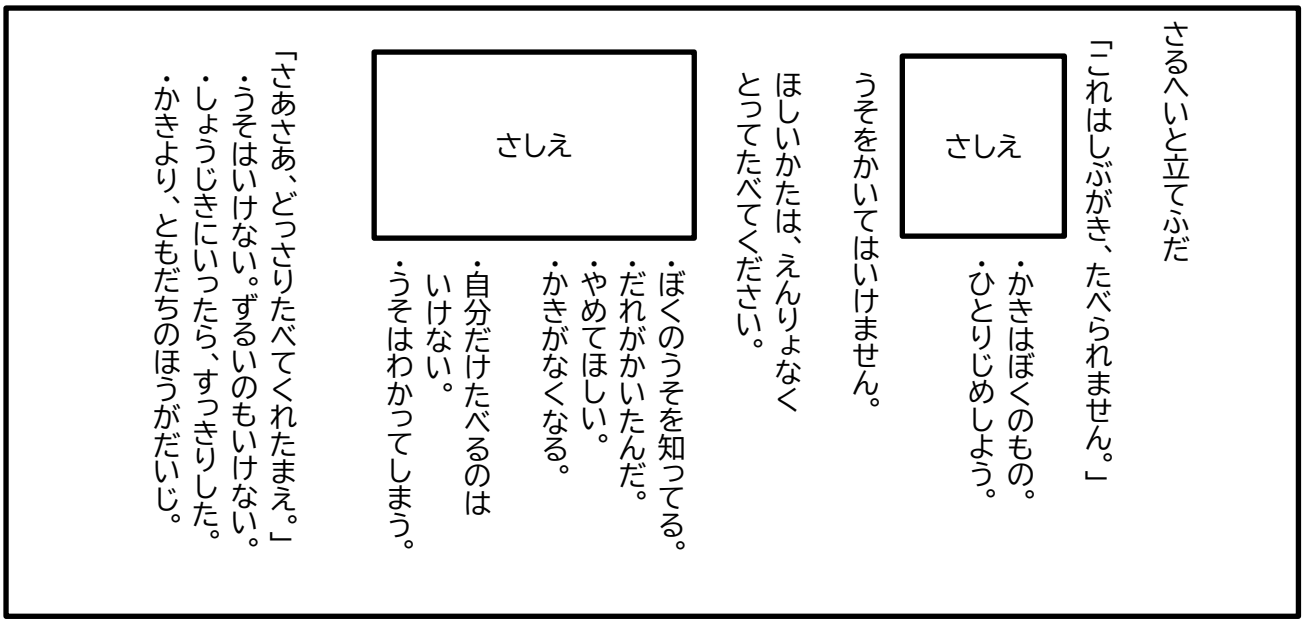
(1)本時のねらい

嘘をついたり、ごまかしたりしないで、明るい心で生活をしようとする判断力を育てる。

(2)展開

	学習活動 ○発問 ・児童の反応	・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
導入	1 うそやごまかしについての体験を思い起こす。 ○うそをつかれたり、ごまかされたりしたことはありますか。そのとき、どんな気持ちになりましたか。 ・遊ぶ約束をしていたのに、悔しかった。 ・友達でいるのが嫌だなと思った。	・具体的な経験と感情(もやもや感)を短く思い起こさせ、正直さの良さへ意識を向けさせる。
展開	2「さるへいと立てふだ」を読んで話し合う。 ○立て札を立てたさるへいは、どんなことを考えたでしょう。 ・これで柿は僕のもの。いっぱい食べられるぞ。 ・独り占めにしよう。みんなには食べさせない。 ○二度目の置き換えられた立て札を見たときのさるへいは、どんなことを考えたでしょう。 ・誰か、僕のうそを知っているかもしれないな。 ・自分だけ食べるのは、だめだったかな。 ・こんなこと書かなければよかったな。 ○「どっさりたべてくれたまえ。」といったさるへいは、どんなことを考えたでしょう。 自 ・うそもいけないし、ずるもいけない。 ・正直にならないといけない。 ・友達の方が大切だ。 3 うそをつくより正直にすることの良さについて考える。 自 他 ○今までに、うそより正直が良いと思ったことはありますか。 ○それは、どうしてですか。 ・うそをやめたら、もやもやした気持ちがなくなったから。 ・正直に言った方が、気持ちがすっきりしたから。	・さるへいのおかれた状況を把握させる。 ・さるへいの欲張る気持ちにもう一度共感させた上で、うそをついた後の不安や罪悪感に気付けるようにする。 自己理解① ・ロールプレイ(立て札を立てる/見る動作)を取り入れることで、複雑な感情を直感的に把握できるようにする。 他者受容① ・対話によって、「うそはもやもやする」「正直になるとすっきりする」「友達と食べたほうが楽しい」など、考えがどう変容したかを共有画面や板書で可視化する。 ・「うそをついてはいけない」という頭だけでの理解だけでなく、「正直に過ごすと心が明るくなる(明るい心)という感覚的な良さに着目させる。 ・友達の「正直にして心がすっきりした」体験を聞き、人の良さを認め合えるようにする。 ○正直に過ごすことの良さや価値に気付き、これからの自分の生活に生かそうとしている。 (ワークシート)
終末	4正直な行いについて、教師の話を聞く。	

（3）板書計画


さるへいと立てふだ
「これはしぶがき、たべられません。」
さしえ
・かきはぼくのもの。
・ひとりじめしよう。
うそをかいてはいけません。
ほしいかたは、えんりょなく
とってたべてください。
さしえ
・ぼくのうそを知ってる。
・だれがかいたんだ。
・やめてほしい。
・かきがなくなる。
・自分だけたべるのは
いけない。
・うそはわかってしまう。
「さあさあ、どっさりたべてくれたまえ。」
・うそはいけない。ずるいのもいけない。
・しょうじきにいったら、すっきりした。
・かきより、ともだちのほうがだいじ。